

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	学校名 佐倉市立印南小学校 対象学年 全校 人数 225人（参加保護者25名：オリンピック交流）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 特別活動 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○共生社会の形成を目指し、他者を理解しようとする気持ちを育てる。 ・パラスポーツを通じて相互に認め合い、支え合う心を育てる。 ○生涯に渡ってスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを育てる。 ・スポーツを通して人間教育（フェアプレー、公正公平、努力の大切さ等）を推進する。
5 取組内容	<p>【スポーツ義足体験】</p> <p>5、6年生児童全員が、義足体験を行った。リオパラリンピック出場の義足ランナー、佐藤圭太選手(トヨタ自動車)と LIXIL スタッフが補助をしてくれて体験した。体験している場面を1～4年生の児童が見学した。佐藤選手から、「自分が義足をつけたわけ」や「義足をつけてのスポーツはずるいのか」などの内容で講演を行っていただいた。</p> <p>後日、全校集会で、スポーツ義足体験で交流したパラリンピックの佐藤圭太選手の映像を振り返りながら、高学年有志の児童が、オリンピックについて調べたことや考えたことを全校児童に発表した。</p> <p>【オリンピックによる講演と実技指導】</p>



アテネオリンピック体操競技の金メダリスト、富田洋之さんをお迎えして集会を行った。

アテネオリンピックで富田さんが鉄棒演技をしている映像を流した後、各学年の代表児童が、富田さんに質問した。「どんなことを頑張ったら、将来オリンピックに出られますか。」「体操をやっている、よかったことは何ですか。」等の質問が出された。富田さんは、質問に丁寧に答えてくださった。

また、代表児童が前転、後転、開脚前転、開脚後転、側方倒立回転、ロンダート等を行い、富田さんからアドバイスを受けた。

それぞれの技について、実際に師範を見せていただき、技のポイントを学んだ。



<p>6 主な成果</p>	<p>【スポーツ義足体験】 義足を使いこなすことの難しさを体験し、選手の努力を実感することができた。また、普段とは違う足で歩くことで、いつもとは違う目線で社会を学ぶことができた。うまく義足をつけられない児童や立てない児童もいたが、それを見ていた周りの児童が手助けをしたり、励ましたりする場面が見られた。義足使用者の話聞き、義足を使いこなす姿を見ることにより、障害のある方に対する意識を変えるきっかけをつくることができた。</p> <p>【オリンピックによる講演と実技指導】 児童は、富田さん紹介の映像を見て、その演技の素晴らしさに大きな歓声をあげていた。体育の授業で取り組むマット運動の技でも、違いが明らかで、どこをどのように意識するとよいのかが、とてもよくわかった。その後の授業で、指導を思い出しながら取り組む姿が見られた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>【スポーツ義足体験】 児童の意欲を高めるために、座学だけでなく、児童が活動する内容を取り入れた。実際に、パラリンピックで活躍した選手に来ていただいて、体験した5、6年生が、オリンピック・パラリンピックについて学んだことや新たに調べたことなどを全校児童に広めるようにした。</p> <p>【オリンピックによる講演と実技指導】 実際にオリンピックで活躍して金メダルを獲得した人と交流することができる内容を取り入れて関心・意欲を高め、事後の活動に生かせるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>どの方に講師を依頼するか、そのためにはどうすればよいかなどがわからず、実施期間が限られていたので、講師が決まっても日程調整や保護者への広報が難しかった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック・パラリンピックに参加した人だけでなく、今年度も来ていただいた順天堂大学の陸上選手、体操選手など、オリンピックを目指している身近な選手に来ていただき、引き続き行っていきたい。</p>